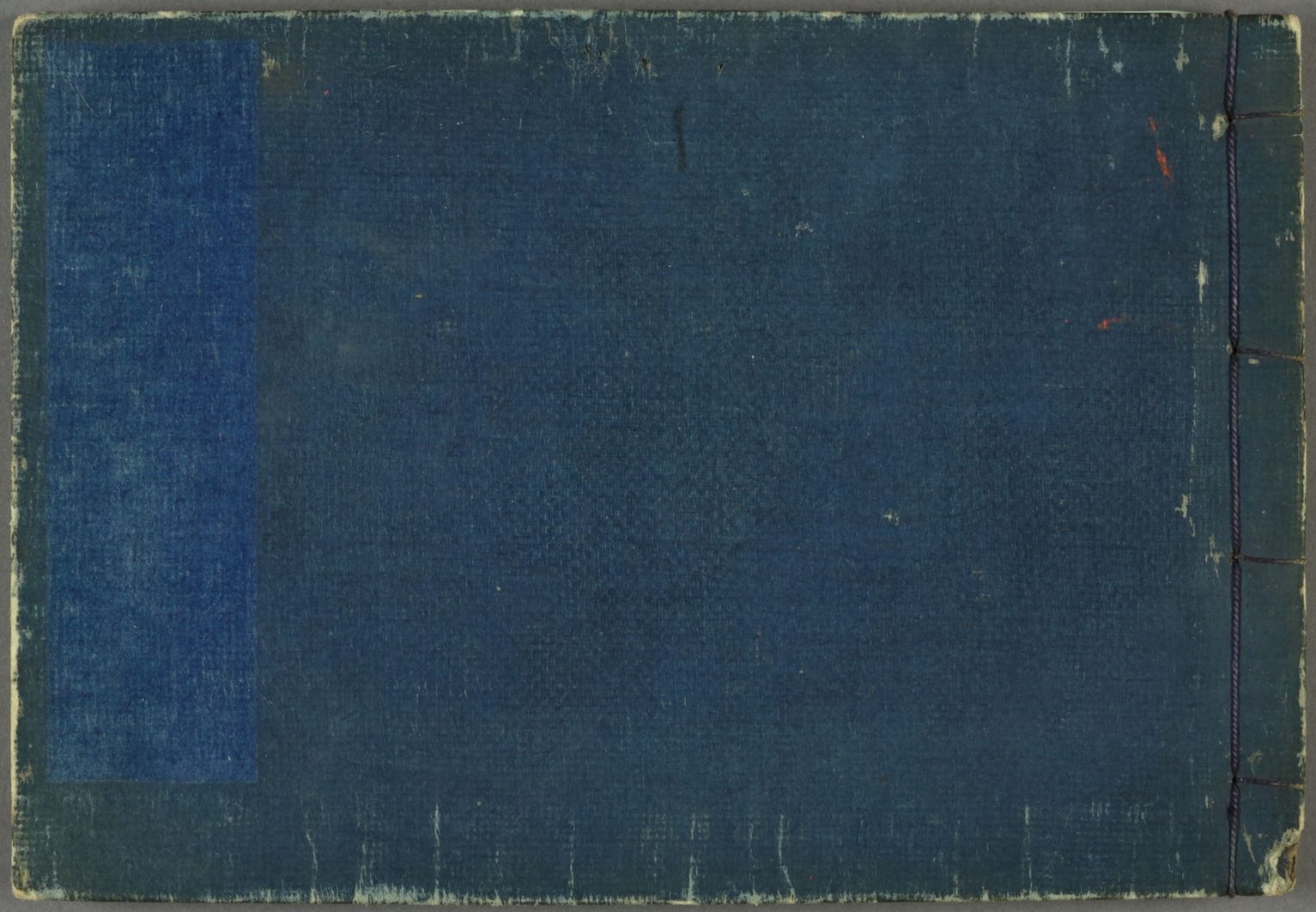

阿羅野

尾陽遠庵檀木堂主人荷兮子集を編
く名をあらはすといふ何故子此名有事
を志ることを予するのふかめしやうふひとく毛
此郷ふ旅集せ〜ちもちくの事務をあり
ものく者の日とのふを日のもの井続こう
者れ日まこと世ろ〜のくやうをけふや者文
若やよひの空ゝ礼ゝ〜歳柳橋の緒とな
らそひてふるものおれろさまくふる風情
につるゝ〜いさこの實をそもれふものを
あれちふやいさ申ふのいろのちるふるんの
さ〜れ宵のなるこうふゆろて姫事ち
のなふくもつのを毛を岸の大空ふを飛毛
てを毛のきそをりなるを道をくのうちを
るをもをと此野の西北郎ちをいなる
へ〜

元禄二年仲冬

芭蕉根青

深川氏

曠野集　花三十句

よしのゝく

吉野山こゝぞ花の芳野山　貞室

春雨の降るに花のあるじかな　路通

春雨の降るに花の枝の枝　信徳

春雨の降るに花の枝の枝　晨風

それの山ことごとくまつ雲よりむ

雪消し花のうしろの鬼瓦　友五

山里ふ嶮のものゝ花ゆゑ　尚白

何事ぞ花見る人の長刀　去来

みよしの雪ゝ花ゆゑ　野水

雪の中の花ゆゑ　亀洞

しの下に宿といそぎ　越人

花の山岩ぬくふる枝の宿

花あけぼのゝふりぬ花の影　津島　一井

花見のいろはあまり花の時　俊似

あるそれは酒のもくよ　胤弾

鈴付ふ鶯てをよしや花の陰　舟泉

胡及

雪川の降る傘そいまゝ　長虹

笠の花咲ふ雨の宵　津島　卜枝

雪ふなるゝ逃ぬ花の枝　岐阜　鴉歩

連ふ川や花見ハ雨ゝ花の時　荷兮

疱瘡の跡まこゝる花見ふ　傘下

あらけ水や風車夏花のとき　薄芝

花ふ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　さつ

山あひの花をとゞりふ花の雲　心苗

おゝ雨ゝや理窟ハ雨ゝふ花の雲　越人

なるそひや初花ふの地ふ雲　野水

獨雨ゝ友選ひ夕ふ花の山　冬松

花ふとこけら贅ゆる尾ふ　冬文

貧ふて昔の花見よ鮑とる　荷兮

酒のゝ居ゝる人の陰よ

月花ふなくて酒のむひとふ　芭蕉

ある人の山家ふいゝ

擂の雨ふ花ふ雨ゝ　同

杜宇二十句

ほとゝぎすを聞かくのごとくなるべきか

名月の夜月見つゝほとゝぎす　李吟

月ふかしほとゝぎす山ほとゝぎす初うつを　素堂

いそのゝきかつふかせうの郭公　釣雪

蝙蝠のひるのうかれや蜀魂　越人

わかれゝるのはまもるや時雨　津島　松下

跡や先熟のくゝ堅きの郭公　重五

ほとゝぎすとれうちさうむかしの座敷　柳風

ある人のもとにて数句せよとの題を得て

かとゝぎすたゝかつもかつも鳥の形　嵐蹲

鳴ちらすそれ鳴ひかるゝやなかるゝきぬ　落梧

故郷臭き森をえうりゝや郭公　一髪

こゝろほとゝぎすとゝのとうゝやほとゝぎす　同

淀にて

わかるゝきぬ十日もたゝぬきぬ　風泉

時しらぬ森のうらゝ先のほとゝぎす　吸阜　杏雨

あつれしや今新くゝ雪なるゝきぬ　傘下

くゝるゝやかまゝゝきく郭公　同

馬と馬よりそゝしあひのうかれ　鈍可

くゝるゝあるのの月そのそれるゝ吟せられゝ

郭公ゝゝとゝかゝきゝ人のゝ月ほとゝぎす　大津　智月

うゝうゝとうゝふきゝかうゝ郭公　雪梶

うゝのうゝきのうゝほとゝぎす　市山

月三十句

かるゝくゝと笹のうゝ月見かな　土歳　梅舌

えんうゝや月見る中のひかり小　湍水

月ひかりのうゝ月今宵小　一雪

西の月とゝとなりの屋あうう　越人

けうとゝふ少掘むく春枝れ　昌碧

屋わううの宵ゝさひゝや月の新　津島　市柳

ちゝけふほうて掃る月枝れ　一髪

とゝゝとゝえとうを月の中小　長虹

傳まて硯抱くく月見この那　任他

一ツ屋やうのひとえる久人の月　亀洞

名月をかゝるきゝゝかうう　越人

名月やゝゝふ十二を宵のう　文鱗

名月や いつまでもとて 佐渡の海　昌碧
ちいけつやとて〜てあるく雨の中　傘下
名月や 数の寄とて 犬のこゑ　二水
名月のとゝまるとて 人の母　野水
名月の ないてゝとまる 日の大切　荷分
むつまじと 見とゞまる 日の大切　同
以外の月 とあとを 忘れて 去世　去来
名月や 海もおもてを 改めて　朔及
名月や 戸とゝまる 戸とゝまる　釣雪
めつらしく ありそうた 蛙の数　一髪
宵やとし 橋ハさびしや 月の新
十三夜
新しく 秋さらぬ 極える 月秋ル　杉風
朝日
寒しく 不用の 郵もれ〜 あの果　荷分
二日
ゝる人 ゝ〜 なきさ 月の夕れ　同
三日

行くすのゝ えとゝて 月を 四日　芭蕉
夕月 秋あんとん〜 ゝて 〜む　卜枝
五日
行日 ゝも えゝ ゝゝ 宵の月　伊豫 一泉
六日
銀河 えゝ 人 比や 母のそら　岡崎 鶴声
七日
能 ゝ ふ ゝれ〜て 陽る 月秋ル　岐阜 一髪
雪二十句
大はゝて
雪の日や 昭れ〜の 顔の色　其角
いさ ゆ ゝむ 雪 えふ ふ ゝ ふ ゝ ふ ゝ ゝて　芭蕉
竹の雪 落 ゝ ゝ ゝ れ く 孝の 秋　塵交
かゝ 秋 ゝ や 雪の ある 山 京の 山　加生
車道 雪 秋 ゝ や 雪の ゝ ゝ ゝ ル　加賀 小春
ゝ ゝ 雪 と え て ゝ ゝ 顔と 法 ゝ ゝ　越人
ゝ 河 雪 ふ 戸 明 ぬ 留 る の 尾 ル　是幸

もみぢの竹のふしぶしも雪の一ッ小松　芳
ふるさと松ふる初信ふるうの雪の隈　二水
雲霧ふるる屋ふたちひる春の郷　鳥仙
秋の雪おしきぬやう小牧あらん　岐阜　除風
雪のりや川筋たてそしほるくと　警汀
初雪やおしふるる山ちの雪　傘下
雪のにの大舟ういわふの郷　芳川
雪の軒かく鮭ふてるあうるし　文
雪の雪れ行さやくしや磐の雪　桂夕
ちくくや雪をかる酒強肴　荷兮
雪川雪やたえ雪の藤ふくく　蹄通
ほうら舟く雪のえ糸あり　野水
舟の宮ていてのふれくはの雪　芳川

歳旦

二月ふ月ぬうういせ玉花の美　釋　芭蕉
ふれ人のふうらもうらく花の美　古梵
ふるやふ九千年のはるく縄　風鈴軒
はるくう伊勢の家買人を雉　其角

うくみの名連歌ふあくれふ者　文鱗
月雪のくめふをちくく門の松　去来
かさるふふて年ふる梅の形　一晶
元旦やかくもくと年ふる路通
元日いはをまくるうはくふ笑　加賀
蓬国くく梅の糸うむふ行　大垣　如
ふ月ふくくふ老ふいくくふる年の美　岐阜　落梅
若あをうちうてふよ雪ふ梅　亀洞
伊勢浦や海ふ月ふむ山の美　同
くふさのふとくくふ行宿の梅　大山　昌碧
ちのちひさうくう芽　元廣
小椿子栗やひろくむまつのく　舟泉
くう男千秋ふをなくふけて　同
山柴ふくくふまくる竈の水　重五
松ちくくくるはくる年とくく　釣雪
月花の初を琵琶の水　同
連くくふてふふはくを世くくう万歳楽　一井
くくふをくくくくる沖のる色の花　胡及

天はれてえむしろや秋むの年の海　長虹
今朝こそ紅く縄やしわふく柳ふ　蒐渾
山ほ飛やふくいの面ゥいのなるん　同
遠寺あや舟の迄のうんふくの川　湍水
併より祈てうんときくんのきく　京と色
陣のくもやうの旦ていのなるん　朴什
うくるふとたくるひまはすはくる　冬文
一月の奥のくうくらや荒ゑもら　傘下
くくとのきく寂しうくくくる国の邦　冬松
あくくふ松れくに門とおりしろや　柳凡
大服ゥ去年のくくくふけ自うの邦　防川
岩のあゥ甘まのを年を年をとて　昌勝
傘ゥ馬楽うくくくゥ方棚　夕道
神をくくく松のくくくちくくくきの矢　梅台
くくくくえむ霧やうくるくくみ　野水
咲くくきくしのやくくくくくくら　同
くくくまのくくくきゥくゥくゥ賞　越人
初夏や演名の梅竹今のさま　同

志川やちつ浦陸ゥくふの菱ましし　荷兮
ゥ盛のやくくを陸くゥ鳴ふ寺ア　同
己のくくやくくくのくのくの松　同
我くくゥ見くくふくくるまゥ毛ゥ松　信般齋
ゥふ式ゥ宮ゥ高ゥやくくきの寺　貞室

初春

若草つむ跡い赤ゥ刻畑の邪　越人
結ゥ一て結ゥくくくくくゥ若草ふ　野水
七くゥくくくくくくくて注ゥ乳　津島俊似
如ゥくゥ結くくゥ川あくの寺ゥの乳　賀小春
測濡くく徒のゥくくき破葉ゥ松　藤羅
寺くくくとゥ御くて初ゥ草ふ　岐阜素秋
石絡くくつくくくくゥ梅ゥくゥ梅ゥ　玄察
寿くくくくくゥくゥくゥ梅の花　鴎歩
うゥの花ゥの結ふゥくくゥ紅ふ　越人
蕨くくゥくくくくくゥくゥ梅の花　落指
梅ゥくくくくくくくくくくくゥ花　一髪
花ゥゥくくくゥ梅のくくくて教梅くくき　冬松

みのぶしとまれてうゑのうつ小ら　蓑笠

細代民部の息ふ遠く

梅の香ふなれやうゑ木の梅の花　芭蕉

うぐひすの鳴てこたへる霞の影　長良　若風

雲の鳴や　俳ゐ人ゐ所をみる　云来

鳴ぬのや雲うゑまるもの猪籠　伊賀　一桐

雲ふちんさゝ蕨と持ち是しる　津島　一笑

うぐひすの赤ゝ服くるる所中小き　同　市柳

雲ふかすうぐひすなくや新蕨　夢々

うぐひすふの波こぼをたゝく小　梅舌

ちとうもむ夕とうの川の雲の郷　野水

小ゝく行のうゑ〻ぬ雲うゑ　壺交

小人の暮とうゑ〻ぬ雲小　冬文

かぶとやまうけうの一二す　芭蕉

うぐひすやるの服のうゑ〻くと　傘下

うゑ心のうるゑとまふ行うゑ　路通

蝶ちを行るうゑ〻やあれく枝　荷兮

あ座題
さし木

つゝうゑ〻ぬ思のゆゑ花るさ蕨小　舟泉

接木

つゝ行ゐうゑ〻ぬ雲ゐ結穂小　傘下

椿

晩の海鼠ふあうる法ゐ行ゐ　荷兮

同

蕨ゐうゑ〻蛙氣のつゝぬ接ゐ　卜枝

春雨

うゑ雨ハい世の雲一うゑうゑ孔　満水

同

夫の雨井ゐゑと呼ゐこよ　荒弾

白尾鷹

ゐやふさの風つゝけゐる白尾小　野水

蝶のいふちる雨うゑるちゐく小　奇生

三河ふゐゑゑるあさ蛍小　十二歳　亀助

ゐゐ〻と紀ゑ描ゐうゑ〻〻　舟泉

ゐゐ〻と描やつゝゐゐや大葉　其角

ゐゐ〻〻と蕨四ゐの雲うゑ大蕨　蕉笠

土橋やようつふるとくるつくし　塩車
川辺やうをのつくつむけらくし　冬文
つくし　阪中ふまるふくろを　青江

蘭亭の主人池ふ雅をもてをられしハ
筆意有るより

池ふ雅ハ　俳諸書ふ柳陰　素堂
風のふく方と柳ハやふきふ邨　野水
行るもなしとふ柳ふ邨　越人
ハ　柳ふ邨　一笑
ハ　柳ふ邨　小春
ふ　柳ふ邨　一笑
ふ　柳ふ邨　昌碧
ふ　柳ふ邨　杏雨
ふ　柳ふ邨　此橋
ふ　柳ふ邨　杏雨
ふ　柳ふ邨　松芳
ふ　柳ふ邨　校遊
ふ　柳ふ邨　荷兮

蝙蝠ふとくるる月のやれきふ　同
まつ紙ふりもつ紙て変をて車ふ　素秋
川ふをふ馬ハ家ふ馬ふ　鴎坊
蔦の広ハ家ふ馬ふ　生林

仲春

春の雪ふ草のくれふくる景ふ　不海
草の花や板葉のふ　長虹
なの花の変ふる見れふ　傘子
草の花の陸ふ　清洞
ふくふ　去来
万歳と仕舞ふ　昌碧
つきまて　越人
変ふ　笑仲
ふ　除風
ふ　一橋
ふ　冬松
ふ　一髪
ふ　野水

あくのきふ嘉てこんしゆくのでき葉ふ　除風
る赤ふつくをあらむる雑子ふ　一雪
りうくを倫縄解くやる雑子ふ　塩車
をとつくゑゆくる蓮の邪山寄　宗鑑
ゆをゑくいくあひやぬこうをゆふ　落梧
あくををゆつうふくふゆ蓮　越人
くくをくくゆ岸くのくゆふ　去来
ゆへくきをしくあゆふ蓮の邪　落梧
不図をひて落ふ居ふゆる蓮ふ　連ゑ山　松下
ゆくゆを接梅ふゆる蓮ふ　一井
をゆ鶏を思のをゆををゆふ　柳風
接梅のをふゆをくて蓮る梅盤ふ　梅餌
かやをゆの中をゆのゆるくをふ　炊玉
ふ雑をやふゆをくゆて梅塩　百歳

暮春

何の事しつゆふ土をの蓮の邪　忠知
ねてくしをゆふ事ゆをゆをゆ　荷兮
をゆくの土る跡いをみをふ　野水

舟泉
鴨歩
澤遊
杜国
或之
芭蕉
野水
卜枝
雪　岐阜
蓬雨
去来
俊似
長之
長虹
荒輝
且藁
蕉笠
越人

[illegible]の酒　傘下
人[illegible]と陸との三日千[illegible]　三輪　友重
山[illegible]　荷兮
[illegible]　兼正
[illegible]の[illegible]　亀洞
[illegible]　卜枝
[illegible]　野水
[illegible]　同

初夏

[illegible]　路通
更衣[illegible]　傘下
[illegible]　釋　胤彈

貴柏老人のもとにたまひしかたらひ[illegible]
番[illegible]
[illegible]　竹洞
[illegible]　鈍可
[illegible]　夢々
[illegible]　玄察
[illegible]　生林
[illegible]　作者不知
[illegible]　鈍可
[illegible]　嵐蘭
[illegible]　落梧
[illegible]　李桃　岐阜
[illegible]　東巡
[illegible]　吉次

[illegible]　芭蕉
[illegible]　一井
[illegible]　越人　岐阜
[illegible]　不文　岐阜
[illegible]　藤蘿　同
[illegible]　亀洞
[illegible]　竹洞
[illegible]　鈍可
[illegible]　夢々
[illegible]　玄察
[illegible]　生林
[illegible]　作者不知
[illegible]　鈍可
[illegible]　嵐蘭
[illegible]　落梧
[illegible]　李桃　岐阜
[illegible]　東巡
[illegible]　吉次

深川の寮ふくまるぬめりつ　嵐雪
庵の松をしらしらくまるぬめりつ
けんしきの色いおもてをたかめこそ　野水

仲夏

宵の夏ふ雨ふふふふふふふふふふ　湯井　元浦
川筆のるる角ふ光るほたるふれ　一髪
寒ふふふふ陸ふのをのわる蛍ふ　不文
蛍ようのふふふふ人は蛍うれ　風笛
乃河ふ遊ををを沢のわふふふ　青江
るの夜いひをうり明蛍う明　含帖
ふふふうふの仲ようり知るわふふ　卜枝
の風ふ濃ふる仲の庵ふふふふ　鴎歩

ちをて葬室とふふられふ

ふふふふのふふふあやの新濃ふ　秋芳
故のれて梅のつ赤の蛍うふ　小春
かりそふ赤ふ森ふせをふふふ　杏雨
面のふれ傘のふりふふ四段う明　二水
数の痩て燈のうつふふまりふを　一笑

蕉の葉ふう川ける蛍の鬢う明　胡及
汐引く蕉の葉をふ月む暑さふ　児竹
見伸ふふ姫貝合蕉ふ松ふを蕉ふ　此猶
竹のふふ明姫をけふまりうり　長紅
筆の時ようを蛍ふるしうの竹　去来
ふをををふふふふふふ蛍ふ　野水
わ月面ふ祈きををる汀う邨　一龍
ふ秋ふふふ粧ふをうりぬ月面　尚白
月面面ふ傘ふをれきを面ふ　乗洞

波辛ふふ

おりふふふふしををる蛍紙ふ　貞室
却ふふふふふふふふふふ
おとふふふをををかふき蛍ふ　芭蕉
却ふふふ
粧の蛍ふふ蛍ふふ紙ふ粧ふり　荷兮
同
ふふふを紙を呼ふん蛍風ふ越　人
先ふふの紙をかをふふ蛍ふふ　大津　淳児

曲江の梅の花ぬうちの梅餅
暁の菓のええくりあるハうれう 路通
松の葉の緑をえてくる夏師この形 卜枝
虹の根をこの原四つ中の撞ふ 鉈可
蘭の花や流ふとうるる宵の面 同
塔のや黄昏者人をとうらむらん 越人
冷しや 灯 のこ 涼夏のあさ 藤蘿
夏の秋やくくもふ蔦ゑる里 旦藁

菴の夏守ふ

きひくくきくきくふ夏の蔓 其角
夕ゆうやや秋いい紙くくの鞠ふ 芭蕉
中ふうかのきりむ人の志ぬく 野水
夕のかい柳のるたのくさふ 偕雪
山絡まてゆうみくるのれうふ 市柳 津島
名い香ちまゆのふ紙てきく 長虹

暮夏

橋を命くやうく蟬のこえ 昌碧
きの暑強うけふとうう 野水

夕ゆふ干 傘ぬくく 法 頭 この邨 傘下
ゆくくきふ 橋 ゆらぬ 水 陸ふ 喜春 清邨
涼くきよ 白雨ゆうう 入日うけ 去来
落くく涼や 宿 のき ひりは 荷兮
きき 屋の 松 あ ぬくうふ 同
おかきれのくふきうう 多 涼く 鳥海 如風
花 石の石 鉄 や 茶 の 卜きみ 津島 俊似
涼くきや 橋 の下 中くふの 喜 仝
掘 炭 のとうら中うく 涼く 舟 卜枝
きくくきこわれてかう 川ふ 未學
吹ちうてふのうくの茎 この邨 岐阜 秀正
蓮んむりきうやさいわるくとも 松坂 晨風
蓮を 茶 てみれくく 蓮 ふ 茶 うう 古梵
河 青 うあのわ 星 ふ ゆうう 芙水
ちらくくときうる 松 の 出 茶 ふ 長虹
きくきりくく 沙 干 の 沖 の 清 ふ ふ 俊似
連あ 海 く 結きくく 待 ふ 清 水 ふ 文瀾
引きくくうふのまきるきふ 潦月

かとあらい浅黄ゑてゆかたかな　尚白
雲をぬくをふ法ゝ人ちかうれ　一髪
雲ほし　や暮をふるゝ　卜枝
麻の葉ゆるゝ秋をくりるの　岐阜　李晨
物語をふる小付くるる高ゝ　越人
綿の花ゝ白ゝ蘭ふ咲る　素堂

初秋

ちゝ秋や麻川あとの秋の風　越人
桐の葉や ちゝ川うつん秋の風　圓解

松嶋雲居の寺ふく

一葉ゆ　ゆきをうつ　仙化
うとひらのちゝむや秋の夕ゝき　津島　方生
男ゝ　ゝ　朋機を星のほ白ふ　杏雨
ゝ白い沖を　ゝぬさうりゝ　芭蕉
葉や　ゝ　ゝのちさらゝ　文鱗
あさゝ　ゝ　ゝ　荷兮

子を守るあの小ゆ　ゝ白の白ゝ
ゝ　ゝをのゝふやるゝ　同

陳れる　ゝ　ゝ　鴉歩
あさゝ　ゝ　ゝ　胡及
ゝ　ゝ　ゝ　荊弾
松風や　ゝ　ゝ　去来
ゝ　ゝ　ゝ　昌長
ゝ　ゝ　ゝ　響汀
時雨道　ゝ　ゝ　一髪
ゝ　ゝ　ゝ　素秋
ゝ　ゝ　ゝ　芭蕉
ゝ　ゝ　ゝ　其角
ゝ　ゝ　ゝ　舟泉
ゝ　ゝ　ゝ　芭蕉
棚ゝ　ゝ　ゝ　作者不知
草　ゝ　ゝ　伏見　任口
ゝ　ゝ　ゝ　荷兮
ゝ　ゝ　ゝ　堊
ゝ　ゝ　ゝ　堊　胡及

宗祇法師のゝ

ゝ　ゝ　ゝ　素堂

[illegible]

仲秋　　俊似

[illegible]ふ馬のとまりの秋の雪　芭蕉

つくづくと傳とてる秋の海うかな　加賀　小春

香川や茅葺そこく秋の雪　津[illegible]　益音

石切の寺と寺のうり畑の秋　傘下

寺のねや場所なりるあされとれ　卜枝

条の寺ふ人の鳥ふるゆふ小　一髪

四と物をひろうたるむ夢をふ　伊[illegible]　一泉

山城の条寺つくく夏ひろう　重五

おをふ山たりとしく[illegible]る酒の烟　其角

ちくぬ人とかのひてくる[illegible]ふ　東順

義の中ふおをふ[illegible]き之枝ふ　林斧

しくやれく地ふちくふ菅の[illegible]れり　越水

ウ市をとくやら秋の[illegible]ふ　宗和

ウ[illegible]ふくるよられ[illegible]比

和[illegible]我ウ秋とおくとくう　北枝　（かが）

素堂くまくく

越人　防川　舟泉　胡及　曉龜

[illegible]の[illegible]を[illegible]

一市の芦の鶴渡しみをきくぬ

[illegible]秋の螺

[illegible]

[illegible]市のきくこの[illegible]

関[illegible]ふあひて

[illegible]　其角

[illegible]

よりのふく

きぬくうちて我ふきくせよ坊うつま　芭蕉

いくつの野分の[illegible]　一笑　（か賀）

暮秋

なのかれく枝[illegible]の[illegible]ふ　四丈

[illegible]のちくぬそおしいをしき　昌碧

山[illegible]の[illegible]　越人

一[illegible]の菓の[illegible]　曉龜

荷分の室ふ[illegible]

[illegible]る土器[illegible]

かくらけのくきくふ[illegible]の花　其角

きくの香ゆゑ人や繋惜る　其角
くふなりて業俤らうとをくれり　二水
かなくりて若さく寒の塩ふ　伊勢千岡
淋しさい檀の実蔵る行くめ小　濃州芦夕
秋の蓼ものうく寺ちぬや梅すき　加生
芦の穂花まるくまくるちる頃れ　路通

初冬

あをつちのそれしくるる時ふ　湖春
茶ある人ふやきしくるる
一夜をて三井ちるうくく和ちる生　尚白
ちり出されぬおかひ出すこの夕　湍水
万句興行より
ふちう寒人人はやりの時ふ　荷兮
人をるうるる月ろ
今新に花をこうるすちれふ　落梧
物の下像のうすちれれ　炊玉
ちくしまるちう蓼ちる時ふ　傘下
ちうふ二日の月のいきちるう　荷兮

一蓼ゆ柿の実ふれふかうふかう　一髪
このくくく弾を淋しを興炬蓼ふ　同
枇杷の花人のうもたれく赤徳この花　同
茶の花ハかのつつのそふふくくるる　李晨
梨の花ふふふぬれてかれ淋し　野水
蓼ちの川ちうくくるやこのう花　昌碧
蓼ものきて奇蓼ふ赤ふ　同
のくくやきまくひのくくものく　一井
徳ものとくくみくあくく巨燈ふ　落梧
石臼の砕くきのやはくの花　胡及
まくくかくくちてをのえ和ふ　文鱗
ゆくくくきの白瓶ふうるる葱の花　卜枝
ふ稲よ鼎の体くものをゆふ　洞雪
笠地のうくくくえ和る柘榴ふ　一髪
蓼ちをて石けつまりく柘榴ふ　松芳
くくしふ吹くくれくくるのゆ　杏雨
蓼柘の砂ふひきくる蓼の郡　蕉笠

寒月

燈と如く〜霧く〜風そ白き　野水
あそ涙の大根あらふ月夜　俊似

仲冬

おろ〜れ〜絵ま川くれる霧うれ　勝吉（津島）
ま〜ほ〜つまてたく〜る霧うれ　重治（同）
搔くのそる馬糞ふまし〜る伏られ小　林斧
笠の戸とほ〜〜るふゆむ霧うれ　杏雨
い〜〜ける笠とおろせそあ〜ま小　宗之
雲の乾せんくんの炭のうれ　杜國
ふ徳の菓の菓ふ尺〜〜る小　勝吉
ほき池氷のく〜〜ま小　俊似
つ〜〜ろ〜〜まの地ま〜〜ま小　除風
ま〜と〜〜〜伏ま〜〜〜ま小　夜舟

兼題雪舟

時より雪舟雪おろそ　荒弾
ぬつ〜〜と雪舟ま生〜〜ま小　荷兮
板とあて雪舟ふ生〜〜ま小　長虹
る船より雪舟川ま　一井
雪舟川や体むかま〜ふ　亀洞
つ雪の〜〜れ〜〜る雪舟の〜〜ま小　合呫
ま海や明白黒鴨赤の〜〜ら（白炭）　忠知
舟ふ〜〜小ふ雪〜〜の〜〜ふ雪小　亀洞
朝鮮と尺〜〜あ〜〜ん友ふ　村俊

井と極る去い六月を〜〜〜〜

とと〜〜いふ〜裸うたう

汗ま〜て雪ふ突ふむ小宮小　冬松
海荒陽の毒蛇ぬ〜〜ま氷宮小　利重
岸宮の穴ふ〜〜ま小　亀洞
膝弟をつ〜〜と〜る宮〜〜ま　塩車
火〜〜て雪ふ〜〜ま　一笑（かなえ）
い川こけ〜底記を〜〜ま　亀洞
ふ氏〜〜ま〜〜ん　芭蕉

歳暮

餅つ〜〜ま肉ふ〜〜ま酒〜〜ひ　李下
ま雪ま〜〜よめぬ月のあ〜〜年の雪　尚白
ま〜〜の浪い〜〜け〜〜ち〜〜ま〜〜し　野水

[illegible]　亀洞

[illegible]　一髪

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　内習

田仏[illegible]　亀洞

雑

年中行夏内十二句

供二磨蕎白散一　荷兮

[illegible]

春日祭

[illegible]

石清水臨時祭

[illegible]

灌佛

[illegible]

端午

[illegible]　髪[illegible]

施米

[illegible]

乞巧奠

[illegible]

駒迎

[illegible]

撰虫

[illegible]

十月更衣

[illegible]

五節

[illegible]

逐儺

[illegible]

詩題十六句

今日不知誰計會　野水

春風春水一時来
白片落梅浮澗水
春来無伴閑遊少
花下忘帰因美景
留春春不留春帰人寂寞
叢風吹袂衣不寒復不熱
池晩蓮芳謝
暑月貧家何處有客
来唯贈北窓風
大底四時心総苦就中腸断是秋天

夜来風雨後秋氣颯然新
秋の色
遅々鐘鼓初長夜
耿々星河欲曙天
残影燈閃墻斜光月穿牖
万物秋霜能壞色
白菊や寒殺て尽ぬと秋の色
十月江南天氣好
可憐冬景似春美
寂寞深村夜残鴈雪中聞
白頭夜礼佛名經
佛名の礼ノ燭淚く白髮小
淳剣の撥ひのう〜清ひ〜色

さらさらふとり　くく　　舟泉
鋸鋏目立
かゝり結ふの夕日ふくさつろ〳〵
付木突
わ月園の翁てい主〳〵人の亥
鉤瓶縄打
かゝるさやほのらふる秋の里
糊賣　　越人
あさ雲のさそう〳〵わるむつくく
馬糞搔
さら〳〵の打の美ゝとつまさそ
李夫人
魂在何許香煙引到焚香處
かけろふの抱ばるもわつらひものれ
楊貴妃
雲髻半偏新睡覺
花冠不整下堂來
ちる風ふ芳ゆるさしるる蘿紙ふ

昭陽人
小頭鞋履窄衣裳青黛點眉
眉細長外人不見々應笑
ゆの殺蕎やむ〳〵の美の侵ちらん
西施
宮中拾得蛾眉斧不獻吾
君是愛君
花なうう楼のへらる牡丹ふ
王昭君
玉貌風沙勝畫圖
よのふふもまきれぬみその御ふ
一日芳ちをまろる沙ゆく
卯
毒虫の好や山佛供炷ちふ出そ　釣雪
辰
竹ちまん絡ちの有る日の邪
巳
海釈の時ちふてうふ扇うな

午

[illegible]

未

蟬の[illegible]武家の[illegible]合[illegible]

申

[illegible]

[illegible]

山獄

康軍の[illegible]

野鳥　樹水

[illegible]

里虫　児竹

[illegible]

海魚　舎呫

[illegible]

川魚　盆の月　仝

秋の昏[illegible]川[illegible]の[illegible]

牛馬四足是謂天落馬首　仝

穿牛鼻是謂人

一方い[illegible]越人

[illegible]舟於堅藏山於澤謂之固矣

而夜半有力者負之而走

[illegible]師[illegible]の[illegible]

絶聖棄知大盗乃止

七夕と[illegible]

銳者夭　桂夕

[illegible]

鈍者壽　市山

[illegible]

藤房　一井

[illegible]

師直　長虹

[illegible]

一休　端水

[illegible]

法然

[illegible]のつくろひもれきうくゝふ　荒驛

山岩

[illegible]ゝ山い霧うゝ減るこの思の角　瀧水

海岩

苔ゝゝ海ゝて土もかゝゝゝ　仝

名所

八幡の[illegible]と奥とてくる[illegible]田ふ　杜國

ゝゝ矣の背や武蔵ゝ大江山　荷兮

かゝ[illegible]れ初ゝ[illegible]ゝ聘ふく　芭蕉

菓一把ゝゝく[illegible]ふ　瀧水

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]望　荷兮

琵琶橋眺望

[illegible]る鬼嶽さ[illegible]ふ　舎帖

関ゝて家と[illegible]ふ　宗祇法師

美濃國関ゝふ[illegible]

[illegible]ゝて[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]て布々ゝ賣ゝ[illegible]更　杜國

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　重五

[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉

湖の[illegible]ゝ月雨去来

牛[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]月面　一髪

角田川ふく

いとの[illegible]れ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　貞室

[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]見の書　破笠

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ　芭蕉

夕月や[illegible]ふ[illegible]る角田川　越人

九月十三夜

[illegible]ふ[illegible]の月とよ　素堂

略[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]田[illegible]　胡及

略[illegible]の[illegible]ふ　淵支

武蔵[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]る[illegible]面　舟泉

湖を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　尚白

かゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　随友

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ　洗悪

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ふ　俊似

[illegible]れの[illegible]海[illegible]や小[illegible]の[illegible]　一笑

雲の不二ちら屋つ川よりくれそう　湍水
ようやく山も唯大雲の夕ゝうな　野水
ときなの花うをとるやゆるみる　芭蕉
あるの月や不破の小ぬの蝶さらひ　如行

旅

ものかうよりよりやたちく波の邪　芭蕉

大和國平尾村ゝ

花の長嶺ふ川くる脇寒の邪　仝
桜さく日を眠つゝく夕ゝくり　夕楓
日の人や毋ゝくゝ桃の花　一髪
つゝくゝや陵の雲り生さこの邪　荷兮
ひゝ川桜ゝ浦ふ知ぬ京ゝへ　芭蕉

あゝ人の暇別ふ

かゝゝきゝ浦ゝゝ知ゝゝ　除風
森ゝゝめゝ食ゝゝ家を吟安き　冬松
姿をゝゝゝふ知ゝる脇寒ぶ　昌碧
月月や杜鵑　とゝを市の京　松芳
夕ゝゝふゝの人ゝの一ゝ　志賀　傘下

芭蕉ゝと送る

柳素ふをしゝゝゝゝゝ別ゝの邪　釣雪
なゝきゝて徒ふをゝる秋の蟬　一井
秋風ふゝゝ桜ゝる　野水
ものゝをゝゝゝゝ秋のゝれきよ　舟泉
旁を孤をもゝをゝ知ふゝをゝ　鼠蹲

ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文鳥の邪を二人ふゝゝけて　荷兮
戦人脇之ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
自ゝ桜花ゝをよゝるのうへ　野水
おゝゝれつゝゝゝゝゝゝ秋　芭蕉
鶏の巣孤花ゝ家ゝゝ　秋のいを　路通

物聖猫ゝゝ知其角ゝれひ蛍ゝ

物聖猫ふ鼠をゝ川きよ秋の山　荷兮
ゝゝゝ柳ゝゝ蛍ゝ　京　ち
入月ふ今きゝゝゝゝゝ　玄察
鶏きゝゝ駅ゝ月ふ寺　蛍の邪　一井
正川ゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の墓をとはのまの秋の雲　文鱗

[illegible]　芭蕉

藤なるみめ刀うつて　やはらかな紙　津島　常秀

[illegible]芭蕉[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]羽織は綿の入り[illegible]　野水

其角ふはのうつ[illegible]

あつ[illegible]　荷兮

[illegible]　越人

うら風のそよふ[illegible]ゆく[illegible]　傘下

里人のとうの[illegible]　宗因

越人と吉田の[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　仝

述懐

叶屋と称[illegible]出る時

[illegible]　路通

[illegible]　快宣

余[illegible]の田[illegible]　落梧

高野山

[illegible]　杜國

桜[illegible]　梅舌

高野山

又冊の[illegible]　芭蕉

[illegible]　荷兮

さ[illegible]入湯とから[illegible]　仝

一本の[illegible]　杏雨

扇[illegible]　杉風

[illegible]　亀洞

九月十日素堂の亭[illegible]

[illegible]　嵐雪

[illegible]　暁絶

人の[illegible]　芭蕉

旧里の人[illegible]

[illegible]　杜國

鎌倉建長寺小まうてく

[illegible]　越人

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　荒弾

[illegible]　去来

[illegible]　西武

[illegible]　芭蕉

[illegible]　除風

[illegible]　越人

憲

[illegible]　伊勢　一有妻

[illegible]　除風

[illegible]　長虹

[illegible]　文瀾

[illegible]　冬文

[illegible]　心棘

六宮粉黛無顔色

寶雪の[illegible]の[illegible]　長虹

一[illegible]人[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　小春

[illegible]　越人

[illegible]　俊似

[illegible]　舟泉

[illegible]　嵐蓑

山畑[illegible]　松芳

[illegible]　冬松

[illegible]　昌碧

無常

末期[illegible]

[illegible]　守武

無常迅速

はつなりしひまの松さけしの梟　傘下

末期う

南無やみ〳〵有明の月　元順

松坂の浦瓢とらんと人の多まりう

〳〵ふいのちりうるる

橘の葉ゝ新たぬたてのうわのう　荷兮

いもうとの遊若ふ

ものうつふこれ〳〵隠る菊ふ　去来

ゆる人ゝ多しなゝ紙々る時中書を

ゆゝ見の小風とゝゆるちきりふ　荷兮

世をとゝやゝ〳〵妻の多ゆうゝる法

ゝ世月の相の一ゝとゝやゝ　野水

辞世

あゝとゝ也灯蕊一ゝ主コ斎

ゝふおゝ拝ゝ順

ゆゝと新のあゝゝ出ゝゝん一瞬う　落梧

一京野ゝ〳〵

ゆゝ雪や小町う昔のえをゝさよ　釣雪

夢の遊若う

をゝれ一〳〵ゝての里人えゝれゝるゝむ　自悦

雪下う妻のゝまゝう〳〵しをゝゝゝ

ゆゝ見ゝゝやゝゝゝひえゝゝかゆゝし　去来

ユ冰分まゝうし後

その人の新さゝなゝ秋のえを　其角

毋ゝゝゝれゝゝ子の衣れ

をゝれゝゝやゝひゝう今ゝふ秋の雪　尚白

ゆる人の遊若ふ

ゆゝやゝとゝゝやゝなゝゝの意る者　芭蕉

ゆゝゝゝゝゝゝみゝゝうゝる人を

ゝゝゝゝのゝゝゝのゝゝゝふ賢ゝゝう　冤弾

ゝゝゝ野のゝゝゝやゝ今仏のゝゝの月　加賀小春

釋教

伊勢みゝ

弗ゝゝやゝゝひゝゝゝを涅槃像　芭蕉

負ゝゝゝる毋ゝゝゝゝゝゝゝゝ仏像　冤弾

西行上人五百歳忌ふ

[illegible]　荷兮

[illegible]　胡及

連翹や[illegible]　松芳

[illegible]　杜國

[illegible]　冬松

[illegible]　其角

貞享つちのえ辰の歳弥生一日

東照宮の別當僧正の法房ふ慈恵

大師近座執事法華八講の修[illegible]

[illegible]　序品の[illegible]

散花の[illegible]　越人

女房の[illegible]

[illegible]　成佛の[illegible]

[illegible]　俊似

古寺や[illegible]　一井

八[illegible]

[illegible]　千閣

[illegible]　一井

[illegible]　蕉葉

灌佛の[illegible]　芭蕉

灌佛の[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]　一雪

[illegible]　加賀　一笑

十如是

[illegible]　荷兮

即身即佛

[illegible]　愚益

[illegible]　鼠彈

[illegible]　荷兮

[illegible]　探丸

石竜小施隠れの柳のうつるまの水　文里
魂まで冷まじう酒を汲む白壁　亀洞
たつの降りうるふるしある北窓　卜枝
松柏のもちらをそそん松の雪　鈞雪

平等施一切

松柏のうつるまの人をとゝめ　俊似
稲麻ふる大仏をとゝむ堅中小　荷分
法鼓引導　歌　とゝめ　卜枝

なる人四門の春和ありとゝの鶴
鶴とゝ不合不図とゝんを感しく
赤白屋とゝ〳〵寺
屋とゝ〳〵ゝ仏　荷分

ある寺の無行小
藤と庄寺の鼓うとうく　其角
とゝ知〳〵坊とゝの月の水　一井
仏のゝ小帰をとゝる法師小　卜枝
人のとゝふあとゝ〳〵ゝ
ふまとゝられ

ゝゝ又とゝれ〳〵ゝ一問白　蒐弾
法倉の春園論寺あて
とゝふとゝの海や寺〳〵ゝ　越人
古寺の雪
鳴や仏菩〳〵の雪見ゝ　荷分
同
寺形やゝゝる二王の斤腕　俊似
つゝ〳〵ゝとゝれもゝ雪仏　一井
新春ゝる人のゝゝゝや神〳〵ゝ　文潤
千親ゝるゝの〳〵年のゝゝ　其角

藁玉品七句

如寒者得火
ゝゝふゝゝ紙ゝ川ゝゝ　胡及
如禄者得衣
雲のゝや酒行者人ゝまの　玄
如商人得主
双六のあゝようゝゝむゝゝ
如子得母

竹さそ〳〵おもてをつくばけり

如渡得船

月のころ藤の花をきくふねり

如病得醫

うるくるしきあつをわすれる山さと哉

如暗得燈

秋のあやめわかしやるゆふかたそこ

神祇

たそかやこゝをふるこゝろ鶯の柳を洗　釣雪

二月廿八日を例り

ぬさとらまくやはしめ日の春の梅　荷兮

ちんく〳〵と梅ちりうるこゝろ哉　仝

雪ふるこのあしたくるこゝ神の梅　亀洞

ふるはさるこゝ神の梅　昌碧

灯のくるふりくるうらの中　釣雪

梅ちるやどろあいをし〳〵梅の花　越人

雪とゝのくはつまをそこる神の梅　舟泉

月代もさるなくれりゆ梅の香　雨桐

門あてゝ梅の塩雅をのみ重五

絵るとる人の浦のさく〳〵ゝ玄察

茅ふ茅て蔦屋のさうこゝる社ふ鈍可

宮の渡川ふこゝるさくらふ李桃

市を洗の糸柱茅の中の雄ふ好葉

ほく〳〵きて神乗の中と変りゝ玄察

ふるの灯をとゝる火牢ふ亀洞

破扇つゝ流て市稜の時未学

川ふまて雇まくれふ陸稜ふ荷兮

くらし〳〵や里のゝ水く神楽敷尚白

姓月のゝ氏頃いくらふいまるふ松芳

ゝくれや祝宝のくきくる沈崩落梧

若宮奉納

きくまくぬゝかゝ沈を乗利重

海の方と寝ふるを秋の神事野水

沈奉川花角の脇の神楽ふ昌碧

ゝくきの沈ふゝを底火ふ村俊

橋杭や法後ゝる雛ゝ〳〵卜枝

祝

肩衣をぬぎかけぬ冬文

荷分の四十の年ふるうれ　重五

年年を竹をまくふるまつ越人

老代やうゝとてれきみつ　傘下

年若い何ものか中の石　亀洞

いきうゝ西瓜のよふ杖つゝむ　同

千代の秋ふりのよまゝ来

ちゝしうれなるふかきゝ

生花く梅を仏のまこゝろ　芭蕉

曠野集負外

雑の花をかをさらむさゝ孔の市中ふ

いゝく朝のまゝきをえ角れ東四明

竹籠ふ有く花のゝろ八ゝをと仏と

をゝ門く佐川田花六のゝ山あさ

なくとゝる弓と実ふんす又

麦咎ゝ居とゝ山ゝ

此句尾陽の師ふよの他て芭蕉翁

の俳ゝをなれきりふ芋ゝふ内の川法

田野へ居とうつゝて実ふ味を感す

ひうゝあまゝ有るゝ人の中ふ虎の勢俗

ちゝふゝふ遅れゝる人あゝて独う

色を変ゝゝゝ人ふゝ城のみゝふへの

らゝゝる中左のゝゝ後を中て賞

にゝる三色のゝゝゝゝいゝる中賞の

字老杜のゝゝ有ゝゝや花石の白と

ゝゝふく

素堂

こゝに文人のことつのりくるとつけられし
と三人ばかり家をもゆ〳〵
まとさし〳〵かさ仮屋のうけ侍る人　野水
橋の跡とおもふかたもなきの茂り　荷兮
かの志賀ゝ浦なる松こゝ幕うて　越人
門の石見守園のやもゝしかり
郡の月利と　初秋の　水
武士の磨ぎ川山しかと通し　兮
おもりふついて流の鳴る音　人
袋ゝ経ゝ出をそ茶のうへ　水
時雨ふられく　兮
おもゝ松の根あらる　人
千句はとなむ小山のてら　水
時さゝ一句桜と咲ばう　兮
あてこしかゝさ夕月夜ゝ　人
奇の家い流のゆゝ　水
秋をとゝ小ゝく笠　兮
四ゝやら西と　人
ト陸の声　水

さひゝなゝる利根の川舟　兮
をの月ゝてゝ〳〵てかさ墨　人
氣ゝりゝと明盛ゝ　水
ゝゝくゝきの山の市の渡いれさ　兮
孤ゝさゝ人のゝる　人
柏本の街気の所のつゝ〳〵と　水
さゝやくゝとのゝなはすゝる　兮
月の乳ゝ今ゝゝう辻相撲　人
秋ふちるゝ里の酒と夢　水
奇ゝゝ乳歩ふ歩る学ゝて　兮
うれゝゝきのふ石紙の茅　人
かゝちまる謙ふ涙ゝ　水
火着のゝゝまのあつさ　兮
ゝくをかのゝせゝゝ人のゝゝ　人
ゝせゝさゝて池のかゝとて　水
花さゝゝ都をいまゝ　兮
捨ゝきゝふる幸加性ゝ架　人
墨をゝい西月ゝふゝ　水

大根さゝらゝ干ふいとうし　兮

[illegible]や[illegible]を[illegible]を[illegible]　亀洞

はるの舟るふ酒のたゝきを　荷兮

のゝゝゝやゝあさ胸ふ若と解く　目碧

百ゝの懼る茶ゝゝきけて　野水

夕月のきの白さとうち弧　舟泉

あゝをの蓑を振うゝ引きせ　釣雪

蕎の[illegible]ゝゝゝゝ[illegible]ぬ所をや　筆

一路ゝして[illegible]ゝゝと古綿　亀洞

[illegible]ふ[illegible]ゝゝる宮[illegible]麻　荷兮

乗ゝる[illegible]ゝ[illegible]　昌碧

いゝゝゝもあゝてゝゝゝふ[illegible]遊　釣雪

湯殿まゝゝの水際ゝゝゝゝ也　舟泉

[illegible]やと延ゝてゝる川の端　野水

たゝゝゝれゝゝや　行　荷兮

秋風ゝゝ如車の[illegible]とゝゝ　亀洞

[illegible]ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]の法[illegible]　釣雪

附ゝふゝのゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]の[illegible]　昌碧

八[illegible]山吟ゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]　野水

日のゝゝやゝゝふ八行せん行ゝゝふ　舟泉

ふやまゝゝふ出ゝゝふ[illegible]梨　亀洞

向まゝ宴やゝゝゝの小ゝゝ　荷兮

垢離かゝ人の[illegible]りの[illegible]蕎　昌碧

配所ふゝ千奥の加減[illegible]　釣雪

[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝの[illegible]ゝ　舟泉

ゝゝ[illegible]ふのゝひゝゝゝ[illegible]　野水

山を[illegible]ゝ茄ゝふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　荷兮

いゝゝゝて[illegible]怪所の[illegible]ゝ[illegible]ゝ　亀洞

ゝゝふ[illegible]ゝゝゝゝゝれを[illegible]ゝ[illegible]風　釣雪

[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝの[illegible]の母　昌碧

[illegible]ゝ[illegible]秋の[illegible]ゝゝゝ[illegible]　野水

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝる[illegible]の[illegible]　舟泉

ゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ安房の小湊　亀洞

夏の[illegible]ゝゝゝゝふ流の[illegible]付て　荷兮

補のゝゝゝを入ゝゝゝふけて　昌碧

人なとふ拾遺さして花ふり　釣雪
ついとゝろふ高る　精進　野水

若しき緑うき　ゝとまを夫の山　舟泉
柳のうらはうまきりの卵　松芳
夕の月深ねとゝてくるらん　冬文
ゝふゝゝやうゝゝゝる月新　荷兮
秋茶のとゝもなゝ徒咲ゝゝ　松芳
うはさゝゝる　掛角力とて　舟泉
きつゝゝ物の捨ゝんゝゝ　荷兮
ゝまゝ砂の中のあはれし　冬文
火鼠の皮の衣とゝゝ　舟泉
涙入せゝとゝゝ若ゝ　松芳
ゝゝゝ跡ゝゝゝて　冬文
風の半ゝ賠ゝて　荷兮
歳幸を炬ゝ也ゝ　松芳
よまて双紙の絵ゝ　舟泉
なゝふゝもゝゝゝる花の貝　荷兮

身のゝゝゝゝ龍ゝ井の底　冬文
灯ゝゝゝゝゝゝ　舟泉
掛数ゝゝゝゝ拾貝のえ　松芳
陸辰ゝ八器ゝゝの　冬文
十日のきゝのゝゝゝ　荷兮
山ゝの秋ゝゝゝゝ　松芳
出持買ゝゝ為ゝゝ　舟泉
ざゝゝゝゝゝゝゝ月の新　荷兮
馬のゝゝゝゝゝゝ　冬文
ゝゝゝゝ蓬井の篇のゝ　舟泉
延ふまゝゝ蕎麦あゝゝ　松芳
ゝゝゝゝ掃ゝゝゝ　冬文
あゝゝゝゝ提灯ふゝむ　荷兮
けゝの花ゝゝあゝゝ　松芳
味噌ゝる者の漆ゝゝ　舟泉
芋賀の門ゝまゝけゝ藜分　荷兮
次ゝゝゝふゝゝゝふゝる　冬文
美の鉢赤貝ゝゝゝゝ児　舟泉

新たふれる花の藤　松芳
きはちきさの瀑布とかふ冬文
そら面白き　山くらの乱　荷兮

ほそ道をたどる初の新春あて　荷兮
西のかたとてる戸の口　野水
引捨て車ハ琵琶のかたきふて　仝
あるさうれくも人のうしろのひ　荷兮
月の秋藤のもとさふ出るまうり　仝
一荷にふひ〳〵蓼のきくらもや　野水
初あ〳〵そつぜの寮の塀うちも　水
藁細ふむ乳しよるそうのあそう
土肥を夕〳〵ふのさよせく　兮
市判おとも神ものうき　仝
通路のついそとけて迷ふて　水
六伝ふあとし〳〵立のうりさ　仝
代まわり〳〵ものしほわひく　兮
淺を賣り鯉一ふ〳〵　仝
ふ〳〵　水

身の新蕾ほそふいそ〳〵藤　仝
花咲くうと　ふまもたわう　兮
天仙蓼ふ冷食あさ〳〵夫の言　仝
うるかひうけと看経の中　水
たく人まつて芭蕉うちもふも　仝
ひせそ〳〵き酒ついてやる　兮
弱のやと吐りふ法法ふ甲殻　水
秋のあ〳〵り昔澤湯隠　兮
色てくくとよるふふ生身魂　水
八日の月のさきといるまく　兮
山の縁ふ松と根とのの月ちる　水
きはさたそふくくまる　兮
墨を見ぬ腰のきそうり川落ひ　仝
太鼓たるうり階子ふ行るこの　水
ろくくと藤とる本貸の蚊枕　兮
気たてのよきと聟ふ新ふ　水
息ふ〳〵ちふ新ふく一二年　仝
庇とつ筆くきまひうるぬ　兮

○賞外

三方の穀むかしにかはらぬふくする　兮
供奉の菓麪を恭くささげみ　水
照しや小堤大原嵯峨の花　仝
人おもふ中くはるの川岸　筆

月さしのぼる宴のはてにゐる月の影をと
さそはれつゝ物思ひをる人の柄を拾ひくらべ
よき紀園に宗澄法師の月をと出でし
都まで友の秋の庵をとふやおもひおもひ
流れゆきてつきぬ

月に柄をさしかけてよき園かな
越傘

松のこゑそへり夏の秋の庵　人
手くりを流す並木のこゝろかな　下
都のひかりおもてうせ手さのそら　仝
青葉かげしらつゝ人おもひてよみかゝり　人
使の君そゝぎてよろしきる　仝
行れるまと猫の子を選るさかなくに　筆
ちるさくらまてあしたのはなに　下

とこてやらぬ夜の翁ゑみをてねむる哉　仝
まよおもひけふ法ちる寺ら白　人
大観の人に法華をくれされて　仝
月の夕かり狗縄かり川　下
吟みに柿を食ふに柿は皆渋し　仝
秋のうしろ坊烟えゐる宿　人
かゝまらむにのゝ此世と皆くらき　仝
康ふかう書き文字の母と戸　下
花の空ふゆうちらくさく淡路　仝
寺かのく鯛の乙ちるきもうせ　人
うちむれて浦の岩根の蜷千鳥　仝
月くちひかてあかはゆる犬　下
碎さゑの落れ障子は丸盆や　仝
たゝまひかゝる首のふところし　人
寄合橋古藻首まさおもふ　仝
まく献立のされちるひ書利　下
灯蓋の油さわして押かくし　仝
納とおとせときかくそ哉　人

ふるゝ風ふるゝ所のふるくと　人
半ばこそ千鶴やまの　秋　下
ひつくゝと降る雨の紅葉して　仝
人の行ふてこゝのちゝ　人
ゆきゝ〳〵仏や道者とゝ　下
千せる夢のこゝ行ふ　町　中　人
ゆゝくゝとふ法の宮の定時分　下
皆同参ゝ　中　念　仏　人
百万もくるひ不ゝ来の夫　下
田楽きゝ孔てさゝ〳〵踊さ　人

深川の秋　越人

屋ゝ迄ゆきの川ゝふゝすゝゝゝゝ
伊勢ゝ　ゝらふゝこの　けの舟　芭蕉
蓑ゝ　ゝ　雑窮窟ふめてつゝん　仝
理とゝれ孔ゝる秋の夕ゝれ　越人
瓢簞のゝゝさゝ石ゝゝゝ　仝
風ふゝゝゝこの角る市　人　芭蕉

なゝゝゝ長安い見　名利の地　仝
醫の行ゝゝゝ月ゝゝ孔　越人
いゝゝゝ師匠の宮ふゝゝ　芭蕉
ゝゝ世後やゝ寺の行ゝ　越人
此甲ふゝゝ言葉ゝ名をつゝ　芭蕉
見孔ゝゝ雨のあけぼの　越人
きめゝやあゝかゝゝ　芭蕉
風ゝたゝふ寒のゝゝ　越人
ゝゝゝゝ宮の西結ま　芭蕉
ゝゝゝゝ毋後ゝゝ　越人
月と花ゝの言ゝと少ゝ　芭蕉
ゝ雀さゝ　ゝの肌ぬき　越人
酔ゝ戸の打ゝゝ冬る春の末　仝
ゝゝふゝゝ麦のゝゝ　蕉
家孔ゝて　腰ゝふゝゝ一寸後　人
ものおゝゝゝる神ゝのゝ孔ゝ　蕉
人ゝゝゝゝゝ孔の白ゝる　人
初陽ふ羅る　堂　の　斤　隅　蕉

はとゝきす顔のあるく宮中にて
堤のうけ家ハこほれて
あやにくに姉の夕なりけれ
ちゞみたりなきさつむそ
月のうへの家にて消えらふ
備ときく鎧ついねつらし
秋の田をからせぬ公事の長引て
さいさいながら文字問にくる
いかめしく瓦庇の木薬屋
馳走する子の痩てかひなき
花の比談義参りもうらやまし
田にしをくふて腥きくち

人　蕉　人　蕉　人　蕉　人　蕉　人　蕉

八幡に伴なむまいらせし人の
さくらしきに
蕎麦ふ蕎麦の文や天津唇　其角
三日月の月見そなうりたるも　越人
菜萩の夜をまつと門つゝく　仝

飲くらふ菓ハ身ふなる
許りまて縫ふかける夏衣
置きまりふさくあらつきの綾
帽くる涙まふくりとまのく
辞ぬ花ぞ簾とまもむる
空蝉の魂魄の紙の和そろき
何とあろけろ金二万両
いとおしきすと他人の名付けり
やけとありして見しつゝよろ紙
酒熱さ耳ふつきくるさゝえを
奥をそつゝぬ月の江の舟
そめいろの盃ハ酒ぶ秋のくれ
花とさしくる草の一輪
饅頭とら就しき神ふ色ちり
うき世ふつらく死ぬ人を損
西王母東方朔も目ふいえそ
よしや鸚鵡の舌のくるしき
あちきなやおんふたくまあし衣の裏

角　仝　人　仝　角　仝　人　仝　角　仝　人　仝　角　仝

恙の紀ともと舎ふ秋くらのまゝん　人
中々おもひ藤かしねられずうち坐て　仝
茶つくさて師走あり々て　角
夕稽古の吉すゝみ暖のこゝ川　仝
いくへ川の空を若へ漁力　人
宍いもに塵らちちらひ草枕　仝
ゆくなくさくらく伊勢の八朔　角
清月に不動様とかのうえとや　仝
念者法師は秋のいとさう紛　人
夕まくれまくらなりき紙子秋花　仝
うるさひくる実あけのまゝし　角
民をくふに食の禄を配ひろく　仝
ものきくわりぬる日の国より　人
京のまつまあさつさ陰しとりし　仝
むしろ敷つき漁談の春　仝
泉もらし粥椀は人の碇れき　嵐雪
秋そくさきし川も湯嫌　越人

根の宿書とりちくま中におれて　仝
不面薬の草ほけ不ゆく　雪
先稚あひて牧ふまし成里のる　仝
川越くまて蛛下のこち　人
痴癒良の遠き花径蓋のゝき　仝
唱くずい志つさ寺さかえりやる　雪
なるくゝるそなれしのゝき雲に　仝
淺そひよく頃いふゝもろそゑてき　越
ぬ緑より沖あるきるむなそれ　人
行燈そらもてこの人る浪人　嵐
若紀を應ふらてと一川挽　雪
収りい髮そる宵の月のけ　越
寺くさの鏡て法ねる女客　人
つ日つれの醫者のうしろ姿や　雪
ちる花ふ月ふうられこそ花咲し　越
よふこゑくい何をいふらん　人

○貞外

初雪やことしのひる桐火よ　野水

日のみしらるとて　その親類　落梧
山川や　稚の淫ものをさうすらん　金
徒とをてうつてるく　うてけ雪　野水
却のつきま押　合月ふ草　卵川　仝
ゆ〳〵　てう〳〵　も穂の　萩　落梧
川越の宿　ふてる紙　秋の夜　水
ねふと　痛つる　新めきこあた　梧
うせこと　とうの　くうてそ　孫の不　水
きてさ　ふてふ　比のうきこひ　梧
文ゆ　秋の　湯いむ　ゆくしこふ　水
てて　うう　新まて　相　行の　惰　梧
骨の　秋あ　れゆう　ちを　人ゆう　水
艇を　るう　ちの　ふん　音　蟲さ　梧
文て　ふて　ゆまの　むて　ふの　一文ふ　水
ゆ戸　ハゆ　ゆく　月の　ゆ行ろさ　梧
耳や　蔦や　よて　も花　の姿ふ　水
具て　めて　せふ　ふの　初　年　梧
いゆ　ゆう　ゆる　ゆぬ　ゆふ　仝

山伏　行く　人を　この　ほた　利　水
くて　て　と　轉　あけ　ける　茶　車　梧
拠　灯　る　く　深　く　て　て　て　て　水
行ゆ　と　法ん　髮　を　接　ひ　梧
ちて　ゆ　も　いた　ゆ　法　ゆ　水
ま　ゆ　て　て　ゆ　て　ゆ　て　梧
かる　資　を　飴　ゆ　ふ　て　ゆ　く　水
ゆや　て　て　ゆ　ち　て　ゆ　ゆ　梧
御　ち　る　の　ゆ　例　の　是　道　水
彩　ふ　く　月　て　て　て　れ　ゆ十　間　仝
寂　き　秋　と　如　文　辰　て　て　梧
ゆ　と　て　ふ　ゆ　て　ゆ　て　て　水
乘　ゆ　て　て　ゆ　ふ　て　ゆ　ゆ　仝
彩　て　の　干　奥　行　る　て　ゆ　ふ　梧
誰　て　て　花　を　て　て　て　て　て　仝
て　ゆ　の　て　て　行　て　て　て　て　水
ゆ　て　て　行　て　て　て　て　て　て　梧

一里の炭賣いつ門をこわつて　一井
かもひの先は龍沙系朝　鼠彈
さきさくはやこゝをとりかゝつて　胡及
肩衣を門を酒人をつれ人　長虹
夕月の入きて早き　塊きて　鼠彈
たちまち人御とつのこゝろむ秋　一井
里ちつゝ　躍蕎ちつ二三日　長虹
夜月ち素ちつれちまてく臺　胡及
門ちゝ紙ちゝ涙ちつ初の言ちゝ　一井
著籠ちゝちゝく切ほとく文　鼠彈
ちちゝちゝ紀なちちゝ陽ちます　胡及
をゆく秋半の雛の雲鋤　長虹
なつてちちちあひてちゝ　鼠彈
輪とをちゝ女中ちつ　一井
浦風ち程ちをまちる月孫し　長虹
みちゝちゝ紀伊の魂　胡及
ち老のさゝ矢敷てちる弟の浪　一井
森ちちゝ雪ちちさちけり　鼠彈

はるのちれあちきくも　胡及
紙子の綿の猫ち　長虹
ちれゝちる門ちゝゝ　鼠彈
ちを敷なちある故をちる　一井
ちちちふあちゝあちし松の枝　長虹
拝ちちる人ゝ　乃　胡及
此年ふなちゝ矢の隣ち　一井
門ちゝちゝ世ちふつひ春ちる月　鼠彈
年ちちく陸子の信のちを　胡及
ちちちちちふちちむ萩の長　長虹
清ち孫八道の矢のちちけふ　鼠彈
衣ちちる人のあゝ　一井
毒ちりと瓜一きれ　長虹
斤風あちちくちを　胡及
板ちちく砂ち　一井
ちのの内ちを九　鼠彈
めゝとりちくのちれぬ　長虹
ちちちちといちれてゝし　胡及

炭俵序

此集と撰める孤屋野坡利牛らハ常ふ
芭蕉の軒ゝ行のよし屋の窓をし
らさ心乃泉とくみ志ゝ〻十あまり
なゝの文字の師風をそけ笑あゝふ
事世業俳諧ま事ゝ〻ゝ所をませる夜
ゝ〻二三子庵ふ侍ゝ大病ふりゝ発
とおゝ子庵をとれふ口を活とけ宋人
の手亀まゝゝをとゝて藁色なゝんや
まゝ〻ゝ杉署ふ燈のさゝ〻ゝなるを思ふ
ゝさ横ふかの行ゝゝ今宴の松の古きよ
ゝ義ゝと侍よりまゝ〻ゝいゝる春のこと
ゝ毎ふ入侍ゝくもうるうのあ春のの
ゝの毛ふ魂のまゝゝるゝふゝこゝを
とゝひとはるの日のゝのとゝゝ秋
の月ふりゝらゝゝふけゝて中吟続ゝ春ゝ
て童ふ行ゝゝ二ま行ふゝゝのゝ人ゝ
らゝゝるふ有色の路をゝ侍ゝゝをゝれゝ文

くぬぎ炭の筋さへたりけしくも見事を
かく付侍るは詩の正義にいへる五用の
これあるハやまとの道のことのはひかりハ
はるゝと例の哥に佳せる事をあまね
篇によりて花のつる木の枝もしらひと日芭
蕉翁旅行の首途に野坡が亭に携へ
て再會の期を契りし例此和の集の為ニ
とてかの中籠の秋さかり火桶のかたはらに
くぬぎ炭のふる寿をひらきつゝ吟
てふ炭さらしといへるハ誹也かりし也
りけるを小子のとりて其のよし書きける
みや此書は夏ならふ蝶と成なりこの心
をて筆しりて序書てよとて云柱くかの兆
ぬ今此書をとのへかへ初をゆふに貌写
おもつらに人々はちらふ糸とつくる嬉に
はあしうしくもと吟らむ

元禄七の夏閏さつき初二の日　素龍書

梅が香にのつと日の出る山路かな　芭蕉
處々に雉子の啼たつ　野坡
家普請を春のてすきにとり付て　仝
上のたよりにあがる米の値　芭蕉
宵の内はらはらとせし月の雲　仝
藪越はなすをあきのさびしさ　野坡
御頭へ菊もらはるゝめいわくさ　仝
娘を堅う人にあはせぬ　芭蕉
奈良がよひおなじつらなる細基手　野坡
ことしは雨のふらぬ六月　芭蕉
預けたるみそとりにやる向河岸　野坡
ひたといひ出すお袋の事　芭蕉
終宵尼の持病を押へける　野坡
こんにやくばかりのこる名月　芭蕉
はつ雁に乗懸下地敷て見る　野坡
露を相手に居合ひとぬき　芭蕉

町元の法らうと酔く花の陰　野坡
門く押すく壬生の会　芭蕉
赤鼠のせふ薬のつきれ薬草　仝
ふく居るまふふ脇わかれら如　野坡
行戸の古杏ひろひの寄る宝　芭蕉
ちちれいれとうく向とこの寺　野坡
方ふ十数の内のうるの寺　芭蕉
相の寺るくく月さのゆるあらと　野坡
門ちちくくちつてねくく面白こ　芭蕉
ひろふと金て表このくもる　野坡
ちち年ふ如寄のもゆと旅寝て　芭蕉
又このちちも陳ぬ宰人　野坡
法市の湯法と寄るる花さう　芭蕉
縄まとちくくまを表の如夏　野坡
との家も赤の方ふ宗とあけ　仝
夏ふ誉あくくまの雑炊　芭蕉
ふ雪降一数くふまちれう　野坡
未をの寄のもてあ暮用　芭蕉

蹴ちも初らせそ蹴とつれて集て　野坡
屋風の虎くちちる夢ふ蛍　芭蕉

三吟

蕎麦を延おりちと花さう　嵐雪
あさみや苣く崔鶏ちる　利牛
斤道ちちの山坂のくまりて　野坡
かとちまくふ問ふ相撲場　嵐雪
砌くと朝日ちちの宵の月　利牛
早稲の晩稲と相まふ出る　野坡
泥深をちと流くりのちちち　嵐雪
いちちちれい蓋のうるの川　利牛
蒲くち茶くく蹴を留ふ寄る　野坡
てちちくくくも参るういわり　嵐雪
恵谷のくちふ寄物聖護院　利牛
お百のうけを二度ふちちち　野坡
洞めきのの沓のの法ある音のと　嵐雪
人のちちらぬ松ちちむあり　利牛

新後の雑とりぜられて　野坡
股の中なる芋を掘る月　嵐雪
漁とる窓やうくあさの秋　利牛
新酒みくしを又新こし　野坡
きえのくるしき彩ふ長夜　嵐雪
抱揚るるの小便をこぼす　利牛
くくくくと河内の長雨降る　野坡
知らぬ者のせんくく　嵐雪
譬ふ為く娘の世とい家ふり　利牛
てしのくあいなどと笑ひ　野坡
重佛の細さ出ぬ長夜　嵐雪
此ういまいの小雨これよる　利牛
乗の穂いぶ風に吹倒る　野坡
る湯の嗅嚏の浴ふまむ月　嵐雪
身をくくくくと行ふる　利牛
今宵底のくちはかけも　野坡
賣ふくくかてくもるた紙　嵐雪
ひらくくとやきのふるとも　利牛

雑食の後きくせくもらもる　野坡
うくくくきのもくふ細川　嵐雪
神行る拂ともくて花の陰　利牛
まくくひのくる西月の庭　野坡

山川ふまのうく
空空の花咲みくく麦の畝　孤屋
空の雨籠のくしる陣川　芭蕉
上張を重くふ陣の雨籠て　岱水
くのくとのくけく河の宿中　利牛
春雨くく降ものて雲の月　芭蕉
くくくと據のこ　秋風　孤屋
ウ
ふくくを蕨のトよくくて　利牛
咲の竹くの山夫まるまり　岱水
妹をよつ来よこくくからくく　孤屋
傍邪のくくまの川又とやる　芭蕉
風細う雨降くくくの咲やう　岱水
雨のなくあくとくあくり　利牛

[illegible] 汁わかく老よりよくなりくく　芭蕉
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　岱水
[illegible]　孤屋
[illegible]　芭蕉
[illegible]　岱水
[illegible]　利牛
[illegible]　芭蕉
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　岱水
[illegible]　孤屋
[illegible]　芭蕉
[illegible]　岱水
[illegible]　利牛
[illegible]　芭蕉
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　岱水
[illegible]　孤屋
[illegible]　芭蕉
[illegible]　利牛
[illegible]　岱水
[illegible]　孤屋

[illegible]　利牛
[illegible]　岱水
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　芭蕉
[illegible]　岱水

芭蕉　孤屋　岱水　利牛

各九句

百韻

[illegible]　利牛
[illegible]　野坡
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　野坡
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　野坡

ウ ぢめなの中てよりなりほあり　孤屋
坊をうあれとやれうあれ仁平に　利牛
松坂や矢川へをいるるうら雪の　野坡
咲うう勝もつくを雪の後　孤屋
十二三年の衣裳のあをうひ　利牛
市雪をしるる寄もとうくく　野坡
日のあくる方いあらむ竹の色　孤屋
兵衛の葉さうう口もくしうら　利牛
を江戸のうらの泡をすおく　野坡
天氣の相を三日月の思　孤屋
生なうう歩ふ却迄ひしこ涙　利牛
様の炭落る屋根くるし　野坡
笠夏の虎り連を花うり　孤屋
市義供うの人のそをつく　利牛
ほうくと二日夏のいほひ出　野坡
ろうくあへの結ふうろく　孤屋
かの紙を振をうをもし地芋ひ　利牛
蕎麦の糸をふつをを深　野坡

渡くふ西國武士の義のつをひ　孤屋
尚きの人より今りを大早　利牛
切蜆の答例しくる桂をを　野坡
うをう納を七はの一夏色　孤屋
瘧日をまきうを世をも結うう　利牛
蚤てきけくるう鉢の宝をき　野坡
つをあひの名を帷うふ峠まり　孤屋
うをりの裏の宝を井のもや　利牛
うれの母接ふ負ある古稲　野坡
きいきの長のあまるうそい　孤屋
ひうをうを巻いをてる津古る　利牛
戸てうくくしふ風呂の屋根　野坡
伐遠を根と接のをれあひて　孤屋
赤いふ矣ハあくうしき門　利牛
濱を宝の男の義とうへ　野坡
師を比丘尼の紙のをさよ　孤屋
麻搗の図を年く買うく　利牛
天漢の状をまく言れうを　野坡

廣徳をうへふひらそる私の若　孤屋
むく親ふして寄る親　言　利牛
燃きる義と風ふ指くく　野坡
十四又両のうまいしまる　孤屋
月若ふかきあけ城の行えう　利牛
陸奥　桶　孤屋
三　横臥能　このひこて座ふ親うう　野坡
小豆のさうの空　静　利牛
振端う時こる足と投ひう　孤屋
端の法うけを会入て見る　野坡
素畑の芋能ふ渡る横ふ桄　利牛
変ふをきうきを　報　政の素　孤屋
初毎をふ物ふなれいたくふ　野坡
又は房の　古若いもく　利牛
波を寺のうふよれい二芋流　孤屋
くいくんうく　嶽しうくそ　野坡
芋素のうまのふ初まと　利牛
一つくふうふ　能　の　重　孤屋

紗さしふ藏川ちきる新の月　野坡
なるきくよる裏の絶あくひ　利牛
いとと流て座ふ此きる時の素　孤屋
入うううして笑流たうきく　野坡
加さふ中の已のりとまつも　利牛
入まる人う味噌を出を　孤屋
もちこのひふ味線　絵の鈴田川　野坡
出茅屋の見る富のうつを　利牛
ほやくとうんとほうきれ　孤屋
ふ茅ふ緑まし　る熱　汁　野坡
茶の内川紙て居る　櫻ちら　利牛
風雅う寄る　逐年　生よく　孤屋
かちうるうく　時の百の言　野坡
入ふつく月の　六　月　利牛
械ちくお上の武蔵　孤屋
書ちつる　初　こうか　ひ　野坡
名大ふのあくふ畑の砂のうく　利牛
何年　蕎　挑し　色成　初の末　孤屋

[illegible] 野坡
九九十日 渥を [illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
里離 [illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
[illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
[illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
[illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
[illegible] 利牛
[illegible] 孤屋
[illegible] 野坡
[illegible] 利牛
[illegible] 孤屋

[illegible] 野坡
三人 [illegible] 執筆

春之部發句

立春

[illegible] 芭蕉
[illegible] 濁子
[illegible] 杉風
[illegible] 去来 京
[illegible] 正秀 膳所
[illegible] 洒堂 大阪
[illegible] 岱水
[illegible] 沾圃
[illegible] 孤屋
[illegible] 利牛
[illegible] 野坡

梅

[illegible] 露沾

うめ咲や白の梅　曲翠
梅ゝ其の蕊ふこゝよりる和日ゝ　文考

宮のうちをこそこゝろ〳〵

梅ちるや糸の光の日のもゝ　伊賀土芳
うめ咲く湯殿の前れ寒し　利牛
赤ゝとの日と咲くゝ梅の花　游力
みなゝ〳〵ゝ咲ちるゝ梅の花　野坡
あ梅ハ姫ちまふる寒戸ゝ　杉風

ちるもの散ふ多つる蕭ゝ　其角
七ゝや　散ひちの者ゝ切刻ゝ　野坡
ゝちれてあ寒梅ゝふ行ゝ　仙技

落ようのゝ人のそしふ

鶯日　一ゝつゝもとゝれこの鶯　去来
大ゝや雄の鳴てまゝ鶯日　丈草僧
ゝちゝ日まゝとれさゝ鶯ゝ　仙花

涼川の金ゝ

ゝ宮ゝゝ金のゝ　三ケ一　利牛

十文日ゝや睦日の古ゝ賣之道　野坡
猫の恋初ゝ鳴ゝ　其角
ねゝのゝのゝんゝ涼ゝ恋ゝ切ゝ

鶯

うゝひゝふ涼ゝと鶯ゝ　嵐雪
鶯ゝ茶ゝ人ゝの文　其角
ゝゝひゝのゝふ恋ゝ　桃隣
鶯ゝ門ゝたゝ敷賣　野坡
鶯のゝゝ人ゝ金ゝ入ゝ　利牛

柳

ゝねゝゝんゝて柳ゝ　湖春
陸ゝこゝ日のゝひゝ柳ゝ　素龍
ゝ人枝ゝゝて柳ゝ　野坡
せゝゝ生いの尾ハ人ゝ柳ゝ　一風
町中ハゝゝ宿の柳ゝ　利牛
傘に押ゝけゝゝる雫ゝ　芭蕉

椿

出ゝゝ人羅ふちゝ椿ゝの　孤屋

枝もたわゝに成らぬなると　桜の郷　湖春
金みゝ〳〵みゝこのしつゝむ　桜　小　曲翠
踊りこのゝこゝをめみをく　花　桜　嵐雪
をのゝ色を待を京絵の赤　桜　支考
はき掃除〳〵てゝ〳〵桜　蕊みゝ　野坡

花

うへ和の花ゑまのゝ待〳〵
人〳〵幕打はきかの〳〵ゝあゝ　芭蕉
乃春はまく〳〵あゝふるかゝそち　杉風
の松このゝとたのみ〳〵　文草
四月ゝ花の　の松ゝ　花ゑの　花ゑ　芭蕉
ちら〳〵や間て花ゑの　ゝめ〳〵ち　杉風
ゝ〳〵と春ゝい花ゑの　ゝ居小　文草
松〳〵のかゝの屋の
花ゑゝ小松ゝ
中ゝゝゝ春の花ゑゝ　素龍
花ゑゝ白きゝ〳〵ゝを実あゝ　去来
朝め〳〵の湯と斤撫や夜の花　孤屋

荊口　斜嶺　北枝　湖春　其角　嵐雪　智月　之道　祐甫　全　利牛　公　孤屋　野坡　仝

行とゝゝ花ゑの雪のゝ〳〵ゝ小
たゝの春ゝとのゝ〳〵いゝ花ゑ
柿の紫波ゝゝゝ〳〵ゝ花ゑ小
牡丹ゝ〳〵人ゝ花ゑゝ〳〵
あゝなゝゝ花ゑ戒の桜ゝ
花ゑよゝゝ春小ゝ桜ゝ
山ゝゝゝゝゝ小川のゝ車　大津尼
老僧ゝ袈裟ゝ花ゑ　大阪
清水ゝ花ゑ陣鼓ゝ
山ゝゝゝ小川ゝ
昆布ゝゝ花ゑ小
おゝつゝい花ゑ
打ゝゝる桜てゝゝ
ゝゝゝあゝゝ入れゝて花ゑ
食の附ゝゝまるゝゝゝ

上巳

雪降ゝ小川のゝゝゝ汐干小　沾徳
ゝゝゝゝゝゝゝゝの桃の花　桃隣

このくきの非いゝら色る枝の鉾　　其角

鬼の子に雛と居るも雛かな　　美濃 如行

日半路を照られて来るや桃の花　　野坡

麻の種毎年踏し柳の荒　　利牛

藪越や?るの鳥の?く?くの花　　孤屋

青柳の泥にしだるゝ塩干かな　　芭蕉

題しらず

?つかに会うちへむふかの?　　濃州田丈 為道

春雨や蜂の巣つたふ屋ねの漏　　芭蕉

?のさるてうしの葉や二三本　　子珊

はらしとこみ楼門のつれあひ　　然雅

ふるの?鰒の?や風の末　　伊賀 猿雖

?桐よりこまの?の気に　　仙華

旅行くて

法?須の?よりは堂可?　　野坡

此集いまだ半ならざる時孤屋猿?なる

何?して深川までみおくりて

?に?のまゝにゆく?る　　野坡

梅さくらふくむ中をたるませり　　利牛

夏部之発句

首夏

?奥の裏?を見し衣かへ　　嵐雪

ころもかへ十日はやくば花さかり　　野坡

綿とぬく猫ねぶせはし衣更　　九節

朝よりもさきたちの衣くし　　雪芝

花の?にこ?のそのかな?　　子珊

??の?蓑白し衣かへ　　利牛

うの花

卯の花やくらき柳の及ごし　　芭蕉

卯の花の絶間たゝかん闇の門　　去来

旅行て

卯の花に芦毛の馬の夜明哉　　許六

うの花に叩あけてや?の?　　支考

題しらず

椊の木もやぶらぬ?しの?　　湖春

[illegible]宗祇法師蓮[illegible]　素堂
[illegible]　芭蕉

郭公

[illegible]　桃隣
[illegible]　其角
[illegible]　嵐雪
[illegible]　杉風
[illegible]　芭蕉
[illegible]　素龍
[illegible]　利牛
[illegible]　野坡

麥

柿寺[illegible]　美濃　荊口
[illegible]　千川
[illegible]　許六
[illegible]　利牛
[illegible]　野坡

麥畑や出あけてより杉菜の中　野坡
[illegible]　岱水

端午

[illegible]　其角
[illegible]　大阪　洒堂
[illegible]　桃隣
[illegible]　嵐雪
[illegible]　仙花
[illegible]　素龍

夏旅

[illegible]　臥高
[illegible]　斜嶺
[illegible]　長崎　魯町
[illegible]　猿雖
[illegible]　芭蕉

五月雨

[illegible]　素龍
[illegible]　抱隣
[illegible]　野坡
[illegible]　嵐蘭

この白い桃清ようとてこぼす

[illegible]　岱水

涼

川中の[illegible]　芭蕉
[illegible]　女の角
[illegible]　長崎　卯七
[illegible]　探芝
[illegible]　備前　智月
[illegible]　丈峯
[illegible]　去来
[illegible]　野坡
[illegible]　素堂

[illegible]

[illegible]　杉風

[illegible]　西秀
世の中や年貢畠の芋しの花　里東
[illegible]　嵐雪

水曽路より

やまもさく巴を出る雨植え　許六
[illegible]　智月
[illegible]　北鯤
[illegible]　乙州
[illegible]　文艸
[illegible]　仙花
[illegible]　美濃　建舟
[illegible]　嵯峨　残香
[illegible]　為有
[illegible]　怒風
[illegible]　祐甫
[illegible]　仙花
[illegible]　嵐雪

さうさく人僕う酒をたしむこと

かくく戒やのいく後きしむ　利牛
ある今よりを目「どちく初くあしき
いくものなしく有あるかきうとれ如て
あくせられ給まて汗をつきて
改く嘲うあのつくあ川さ水　利牛
なる人の別墅ふいさかを是を自
お松く初くしくしくつ外の
のことをかるめ出く
ひををねてるくくやを五愛　野波

蘭く部

秋のあれいろんうくの中ふ月を敬く問候の孝　ちえくを

名月

湖春
ふ月や天つてもを居ぬ行てあく
ふ月や松くうまを番の壺　去来
京買くくこ天初る月お外　荷兮
名月や雉吹紀を表の婚　洒堂
松信や生松揚く江の月を　里来

ちちの猫のくよくふの月　利牛
ふくくの川ふをを一後の月　其角
むさくの仲秋の月くあて
天伯くを月の不安龍波と
四月や不二天四つる駿河町　素龍

七夕

笹のそふ松分てや星むこの　其角
星会うあ天ふおやこの縁　孤屋
七夕やふうくくる天の川　嵐雪

盂蘭盆

くくきくふけくく軒や知まう　洒堂
殿るつきほくふ解く盆の月　李由
盆の月ねくくを門をくくう　野坡

朝貞

閑関

朝くくや貞ふ後おくく門の垣　芭蕉
朝教や日備知てう孫の垣　利合
てくうくと湖春を柳の松　湖春

秋出

年よれいあつハくるとてきりくゝす　大車　智月
ゆくらゝ人のゝきれやれるゝ　丈艸
博徳ゝんて落くるめゝこゝ　嵯峨　為有
くゝろきゝ著て返る猪のこゝ　孤屋

鹿

友鹿の声をとゝるゝ小鹿ゝ　車来
人のもめふゝくゝ
鹿のゝむ行や咲の躬通形　素龍

旅行のこゝ

をゝ江行やまゝひゝるゝ鹿の声　土芳

草花

宮城野の萩や友よゝ秋の花　桃隣
花もゝさゝらゝちゝらや　野童
尼寺の萩や川ゝて　猿雖
芦の穂や赤提揚るゝ菱ゝ　丈草
なゝは浦ゝて
芦のゝゝ著ゝゝゝや岩の猪　去来

如中の華ゝゝ
華ゝゝや鼻のゝゝゝゝ　其角

園菊

菜畑ゝゝある寿のゝゝゝ　杉風
紙衾をゝゝ九日ゝ　桃隣

秋植物

柿のゝゝゝゝとゝゝゝ　利牛
茂栗や茂ゝゝゝ蟹の甲　祐甫
秋風や茶子の数の行ゝゝ　木白
葉ゝ千て実ゝゝゝ柿の梢　孤屋
ゝゝゝゝしの名と南蛮ゝゝ
うれゝ治世南ゝゝゝゝ
中ゝゝゝ未詳ゝゝゝ天のゝゝゝ
ゝ八ゝゝゝれゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
天資自然の埋ゝゝゝ

うれの鬼とうらや花鳥ふのせう
見て竹緑のえしのうくふまあくとて
の仕合なりとかまされいきりさらの
よき座ことめ亭のつゐつふおつき座
てやねのまつ座二階のりまねかし
のひらけをとくのめるねねとあやふく
えき待と朝白のそうかきとあくらん
とりかられもくねかうらと左のさい
うりら髪つり髪のまの日らかゞり
のしつま座てはん杉髪の日とうつす
みさうれとなり ふ合 安藤の次き
ふとみえ出され ねかくふ岩川に五數の
比羽菜の辰どゝきるを菜花乃
頂にとせりくいつとあるへ小飛
まうての跡さりみちの住との
小寺かりこうね一番られく海への
まくとれとみのりしを示を
せしるすゐりとゝいつて いかしめらる

爲筆のみとあらすさのしいまへと
そねくゝとこの世をさりつきえん
いよくかとそとるのむ庵をもには
うゝきめいとまへりゝまきと小序を
そのうよ

石塔と浮りねらさや菊をし　野坡

難しらぬ

我襟にみとゝや秋のくらふき　嵐雪
よ風呂の戸やあまの子の身の程　丈草
碪ひとりよき家ならむ隣のれ　洒堂
秋のくれいつくかくすか名かな　荷兮
茸狩や一莖（イッチ）と見へは嬉し哉　利合
夕ぐれのけいはしる秋のくふれ　文考
らる秋は風かくさくれあかりけり　北枝
秋風に蝶やあつかる淀のうへ　僧依々
庖丁の片袖くらし月の雪　其角

冬之部

初冬

風や沖よりさむさ山のきはに　其角
市井や雪ふかき中にふるし　桃隣
雪紙の破るゝ音や今朝の秋　芭蕉
強霜や氣はまつて雪うまく　支梁
塩の色のきれいなるや小雪来　斜嶺
刈菰麦の芽の青ふむ雪ふる　桐實
風の蕭々とさまるかれ残る　残香
和歌や猫の毛ちらす雪舟　夔舟
風や　眇（すがめ）　を　猫の面　八桑

南天山ふ紙ゝく

本紙の紙ふをうり身物変りて　挑隣
幕目ふ雪の蘭後のさむさふ　游力

時雨

芋茎の後ゝ〜〜ゝ初時雨　荊口
是ゝゝ沖の関屋のひとゝろ　文草
芭蕉葉とふ葉屋ふ雨ゝ
ゝゝ雨ゝ今日ふ問ふよ茶の雨　斜嶺
宵雨とゝれい家ゝしゝれふ　許六

旅庫のゝろ
山ゝゝゝれゝれゝの白い梅ゝゝ　野坡
大根引ゝゝるゝを
鞠壽ふ少物ゝゝゝ大根引　芭蕉
俳巻ゝゝれいゝ家ゝて大根引　野坡
沖送義ゝる雪のゝ大根　洒堂
ゝもゝゝゝのゝゝゝゝゝゝ
人ゝの家ゝゝゝる雪ゝふ　野坡
この沈ゝ生横梅ゝゝふ　禾峰
義麦切ふ明和ゝゝゝゝ　利牛
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
奥物や遊ゝゝゝゝゝゝ　我眉
松の二日ハゝ川の雪ゝゝ日　里来
比地ゝゝの秋のゝ〜に雪ゝ
みゝゝ今ゝふ物ゝゝ
雪
ゝゝゝゝふゝれゝゝゝゝゝ　野坡

初雪の[illegible]の鼻もしら　利牛
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　買山
[illegible]の月[illegible]　依々
[illegible]　猿雖

[illegible]の後[illegible]寺[illegible]
枝の[illegible]の[illegible]の[illegible]　支考
[illegible]の[illegible]の[illegible]　北枝
[illegible]の[illegible]の[illegible]　許六
[illegible]の[illegible]の[illegible]　湖夕
[illegible]の[illegible]の[illegible]　乙州
[illegible]の[illegible]の[illegible]　素龍

歌不紹

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　呂凡
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　許六
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　之道
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　文草

羽黒山人

庚申[illegible]の[illegible]の[illegible]　残香
[illegible]の[illegible]の[illegible]　其角
[illegible]の[illegible]の[illegible]　公

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]の[illegible]　万乎
[illegible]の[illegible]の[illegible]　野坡
[illegible]の[illegible]の[illegible]　嵐雪
[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月

歳暮

[illegible]の[illegible]の[illegible]　杉風
[illegible]の[illegible]の[illegible]　李由
[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月
[illegible]の[illegible]の[illegible]　孤屋
[illegible]の[illegible]の[illegible]　猿雖
[illegible]の[illegible]の[illegible]　野坡

水ふかくみやさしや年とり　素龍

の年よ主人とかたらひ狀ひらく　湖春

俳諧秋之部

秋の空尾上に残る雉子哉　其角

おれて一枝ゆるとなる夢　孤屋

新蕎麦小日備　桜る見咲く　仝

白ののくるく　四季の門　角

祖父うの出頭と蕎麦　仝

つくひとふい地をこうろをを　孤屋

下京い宮居の叢雲さしられて　仝

坊主の長くる暮　暮いをしき　其角

是程のるをして居る八ッ月　孤屋

息吹うつを　霍乱の升　其角

田の畔小早苗把く　投く垂　孤屋

通妻のたきむ編笠の蔭　其角

り燈の川ゆくくくくくくく　孤屋

新ふかの長くくくくくねの月　其角

行縄て鮭のくくれいくくく　孤屋

屋のりくくる我なのあ　其角

車くての物使往のをりくち　孤屋

むうのふあり志のをせて垂　其角

いさを行ものを今のつうひを　仝

文の縞のあくくらくき円　孤屋

反芋のぶくふされてやれくり　其角

何をくとといくをふ俤いねのる　孤屋

年の宵寒樹の枝も蕎ちくく　其角

芋ときなくくふ風をまの川　孤屋

長くくいくくを次貧の赤くり　其角

押と陸との片高つる籠　孤屋

幸嬉へ雀のこりる秋の雪　其角

わよう冷気月の雪り　孤屋

我猫くくを長くくくの酒の涙　其角

上塗れくくふ俤くくく壁　孤屋

名ク小栗　鎌む片言よりせて名くり　其角

[illegible]おの舟　孤屋

孤屋旅[illegible]の出[illegible]

[illegible]

其角　孤屋

各十六句

天野氏奥行

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

入月に枝ハ[illegible]の[illegible]　桃隣

[illegible]の[illegible]相の[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]の[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]の仕合　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

京ハ恵別家うち入　利牛
焼おふ組合くる冨田勇　桃隣
清と盗んて今日とめてくる　利牛
袋を小雲鳴くちる蓬を　野坡
先神まてハうゆる入舟　桃隣
ゆてうう蓑ふくてる花の淀　利牛
ちうも風のふうぬ也写き　野坡

神無月朔日淀川を下り貯無

振賈の虎あきたくしえひを縫　芭蕉
降ていハ戸をくく時雨まる新　野坡
書函の櫻の山茶とりうて　孤屋
庄をけちう月をうる　利牛
妨初の隣を絶ぬ秋の風　野坡
割ぬの安き国竹雀霜　芭蕉
綱の老迫ちをふ赤つけく　利牛
星くくくくを二十八日　孤屋
ちくくくを八時う軍のちるく　芭蕉

淡氣の雪うう雑炊をせぬ　野坡
時をくれ籠枕灯を消して　孤屋
肩癖ふちる湯屋の膏薬　利牛
と金の干葉刻もとうの元　野坡
馬うう歩ぬ日ハ内て煮まる　芭蕉
徇罵のちちうを寄つれう　利牛
辭うう門ある五十石元　孤屋
此清の隙鬼もよを拐月元　芭蕉
砂うぬくくのちる巻　野坡
新畠の糞もおちて毛の上　孤屋
時くられくる笠ちう　利牛
川越の笠しのをあれう　野坡
平地の寺のうきき叢頃　芭蕉
干物を日向の方へちうて　利牛
塩尻鴨の竜おくちうて　孤屋
葉用ふ浮世をる事代まし　芭蕉
又ふ氏ちうふむそめ　野坡
ちくくくを大晦日も四ッの後　孤屋

家のこのむ状の添先　利牛
中よくて傍輩合の借りらひ　野坡
壁をたゝきて寐せぬ夕月　芭蕉
風やみて秋の鴎の尻さがり　利牛
鯉の鳴子の綱をひかゆる　孤屋
ちらちらと米の揚場の行戻り　芭蕉
目黒まいりのつれのねちみやく　野坡
どたくたと花の三月中時分　孤屋
輪炭のちりをはらふ春風　利牛

芭蕉　野坡　孤屋　利牛
各九句

雪の松おれ口みれば尚寒し　杉風
日の出るまへの赤き冬空　孤屋
下肴を一舟浜に買うて　芭蕉
あいさうなしに大名の供　子珊
身にあたる風もふらつく藪萩　桃隣
栗をとうつくひろき畠地　利牛
終宵の燈されたる秋の雨　岱水
翁こしらへて鰹節うる　野坡
二三里を楽にもらふ門の猿　子珊
予の苗物のさかる干の　水圃
竹の皮雪駄に替る夜の雨はれて　石菊
稲ふ子のさきる(?)のちらちらく　杉風
手お者のいひよりはえぬ浦の秋　野坡
めらさらぬ風のたへやる盃も　利合
宵々の月をかこちて旅大工　依々
背中へのぼる児をあいする　桃隣
茶むしろのきはつくよく花散て　子珊
川から見る小舘いとし家　石菊
紀見されて余味よきさ雛子の声　杉風
養戸へ出も山へ行うち　岱水
ものこひ為齊くと親が子を　孤屋
名集めていわれき精進日　曽良
渋米を撚ゝ俵へもたり込　桃隣
竹さくませて茶代の礼　依々
惣舟でなくは自身が書ちらし　沾圃

蹴へりく火とうくまる　子珊
又々佛の舍て坊を呼　利牛
扶をこうして買こゝろ　杉風
大坂の人ふきれゝるその日　利合
酒をとゝまれを祖母の拳ふ入　野坡
きゝけぬる古家の菊のたけうを　子珊
次の小新屋てつゝむせる寒　利牛
絢爛ふかゝて居れハ坊ふ舍れ　曹良
七つの名ふ名ふ罷ふ為ふ為る　杉風
花の名ふゝゝゝゝゝゝゝ　桃隣
男まゝ一ふふ蓮ゝゝゝ　岱水

杉風五　孤屋二　芭蕉一
子珊五　桃隣四　利牛三
岱水三　野坡三　沾圃二
石菊二　利合二　依々二
曹良二

龜田甚三郎校正

芭蕉句集	一
俳諧玉葉集	一
誹諧礎	二
俳諧類題玉詠集	二
闇雲愚抄	一
一茶句集	二
百ゝ人集	二
大和詞	一

嘉永四辛亥年六月

日本橋通四丁目十番地
白樂圃　椀屋　江嶋伊兵衛